

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	漢字の読み方と使い方
学年	小学校第5学年
目標	複数の読み方をもつ漢字があることを知り、その読み方や使い方を理解することができる。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	viscuit
環境	児童11人で11台の端末を使用
都道府県	徳島県
実施校	徳島市入田小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>総時数3時間</p> <p>○第1時 教科書P124上段の例文の読み方を考える。一つの漢字でも、複数の読み方があることを知る。</p> <p>○第2時 教科書P124①に取り組む。例題に沿って、漢字辞典を使い漢字パズルを作る。</p> <p>○第3時(本時) 前時に学習した内容をviscuitでプログラミングする。 漢字を合体させることにより、二文字の熟語が出来上がるプログラムを組んでいく。 無作為に並んだ漢字同士が合体することで熟語になる様子を実体験できた。 プログラムを組む過程で「もし～ならば・・・」という、条件分岐の思考が自然とできるようになる。(例：<u>もし</u>「本」という漢字と「名」という漢字が合体したら、「本名」という熟語が出来上がる。)</p> <p>この作業を繰り返しているうちに、三字熟語、四字熟語を作る児童も出てくるなど、漢字の学習への効果が表れるようになった。また、同時に、プログラムに必要な手順や「順次」の思考も身につけることができた。</p>
成果と課題	<p>プログラミングを行うための漢字学習ではなく、プログラミングを通して漢字の知識を身につけさせ、プログラミング的思考を深めていくことができた。</p>

